

ほとけの 混和会だより

平成二十六年六月
東光院
仏の混和会
第104号



最澄様 法要 大恩 教伝 報

六月十三日（金曜）
最澄様の報恩法要
「山家会」が、印西市内の
歓喜院に於いて執り行
われました。

「山家会」とは、比叡山を大乗
仏教の母山として開設された、
最澄様の遺徳を偲んで執り行わ
れる法要です。
最澄様は弘仁十三年六月四日
五七才で遷化されました。
よって毎年六月四日の前後に、
檀信徒の皆様と共に、身を慎み
大乗仏教の精神を養う法要とし
て営んで居るのであります。
この大乗仏教とは、世俗を離れ

出家の道歩み、己一人悟りの
境地に到ろうとする小乗仏教に
対し、出家者も一般の人々も、共
に他の幸を願い、他の幸を喜びと
し、共に悟りの境地に到る、広い心
を会得する教えで、人間として生
活する上に於いて基本的な規範
と成る教えなのであります。

道心の中に衣食有り 衣食の中に道心無し

その最澄様の遺誡の中に「道心
の中に衣食あり、衣食の中に道心
なし」と言う言葉が記されており
ます。
「道心があれば衣食（財や結果）
は自然に後から付いて来ますよ。
衣食（財とか結果）だけを求めて
人生を歩んでも道心は得られず
人々の不信を招くだけで幸せな
人生は得られませんよ。先ず道心
を求めてごらん、生きる事の意義
も真の幸も揺るぎない安心も抱
けてきますよ。しっかりと仏道修
行に励みなさい。」と最澄様は遷
化される数ヶ月前に遺言として記
して下さったのであります。
しかし、昨今の社会のあり方は
「衣食足りて礼節を知る」（生活
に余裕ができて初めて礼儀や節
度をわきまえられるようになる）
という故事に習って生活している
人が大半かと思えます。

何時、如何なる時も感謝の念を
抱く事が出来れば「足を知る」
と言う心境も抱けてくるのでしょ
うが、私達は「もった、もった」と追
い求めてしまいます。よって礼節を
知ることが出来ない、と言うのが
現実かと思えます。

又、この言葉の裏を返せば、
衣食が足りなくなり、生活に困る
事態になってしまったら、礼節を
忘れると言う事になってしまいま
す。これでは大変恐ろしい社会に
成ってしまいます。
そこで、道心を得ると言う事か
ら日々の生活を営んで参りたい
もので御座います。

「道心」これは、茶道、花道、書
道、などと色々ありますが、これ
ら全て、お茶やお花、又書という
形を借りて仏道の精神「道心」
を求めたものであります。
何れも己の心に、とらわれや執
着等のわだかまりが有ると心は
何時も騒がしく、不安におびえ、
その道を極める事が出来ません。
何事にもとらわれず、執着せ
ず、わだかまりも持たず、心静か
に、穏やかな心で他の幸を願っ
てみるのです。不思議と周囲の人
々も穏やかな心で接して下さる
ように成って、知らず知らずの内
に周囲の人々の大きな優しさに
抱かれていくのです。

己を忘れて他を利するは 慈悲の極み也

先ずは、己よりも、他の人々の
幸を願う所から、勤めて参りたい
と存じます。

ともいきの輪

No. 3



昭和60年3月31日

本堂落慶献茶式、五十嵐宗由先生

「ご縁」、まさに私達の人生は、
この出会いによって左右されてい
きます。良い縁に巡り会えると言
う事は大変有り難い事で御座い
ます。

この度は、私の人生で良いご縁
に巡り会えた人の一人で、五十
嵐宗由先生をご紹介致します。
宗由先生は裏千家五十嵐宗紫
先生の御息女で昭和五十九年よ
りお世話に成っております。
実は、茶道の作法、又その教え
は仏教の教えそのものなのです。
私は、途中で挫折してしまいまし
たが、仏教の教えの奥義を茶道
を以て伝えて行きたいと志を抱

き、昭和五十九年五十嵐宗紫先
生の元に弟子入りさせて頂きま
した。
その後昭和六十年三月三十一
日、本堂の落慶式には宗由先生
に、本堂落慶献茶式を御奉納頂
きました。
又、お寺で、お子さん達の茶道
教室などを開いて下さった事も有
りました。

五十嵐宗紫先生、又宗由先生
には実に三十数年もの長い間、何
かとお世話に成って来たのであり
ます。誠に有り難い事で御座いま
す。

「和敬清寂」人も物も、貴貧
の隔たりを捨てて、物事全てに於
いて敬いの精神を養う、この清ら
かな御心に於いて「涅槃寂靜」
己の心は何時も静かに、安らかな
安住の境地と成ります。

この御教えは茶道のみならず、
聖徳太子より管々と伝えられて
来た日本の和の精神で、人として
生きる上に於いて根幹としなけれ
ば成らない事なのですが、現実に
は大変おろそかにされて、殺伐と
した社会と成ってしまいました。
何とか成らないものかと久しく
思索して居たところ、「秋のお彼
岸に東光院でお茶席を開きまし
よう」と宗由先生より、ありがた
い、お電話を頂きました。
新たに、清らかな御縁の輪が
広がって行きそうです。詳細は
後日ご案内申し上げます。

ジャガイモ収穫祭



「共生きのつどい」

今年も、沢山のご参加を頂き
ありがとうございます。
今年の収穫祭は、みんなに楽
しんで頂けるように、掘立の芋を
その場で試食して頂くことと思
い、色々準備を進めて居たので
が、予定の六月八日は残念なが
ら大雨、やむえず、それぞれの都
合の良い日に各自自由に収穫し
て頂く事に致しました。
みんなで賑やかに収穫する事は
大きな楽しみですが、ばらばらで
すと、寂しいやら、こんなに準備し
てたのに、などと残念で成りま
せんでした。

日頃の出来事や、己の思いは、
なかなか都合の良いように、事は
進んで行かないものですね。この
思うがままに成らないことを何
時までも根に持ってしまうと苦し
みに成ってしまいます。
今年の収穫祭は「思うがまま
に成らない事に、とらわれず、心は
何時も、さらさらと、清流の如く
生きなさい」と言う大きな導きを
頂いたような思いでした。

お盆参りの ご案内

今年もお盆の季節が近づいて参りました。
7月の地域と、8月の地域、合わせてご案内申し上げます。
もし不都合が御座いましたなら、
早めに連絡頂きますようお願い申し上げます。

◎お盆参りのご案内
様宅には 月 日 午前 午後 時 分頃
お参りさせていただきます。

お盆の法要は、8月16日午前11時と、8月22日午後2時です。
後日、改めてご案内申し上げます。お問い合わせは、TEL 0476-46-2471

ねーねーお坊さん
ジャガイモを
お裾分けする袋に
「もらってくれてありがとう」って書
いてあるけど、どう意味ですか？



そうじゃな
今の日本の国には
心を通い合わせ、
共に許し合い、助け合いそして
共に生きる。と言う精神を忘れて
しまい、孤独社会に陥ってしまっ
てる人々が、あまりにも沢山おら
れるのじゃよ。
又人の優しさを、うかつに信じてし
まうと詐欺にあたり、又人に何
かを差し上げて「お返しが無い」
と怒りを覚えたり、逆に頂いた方
は「お返しをしなれば成らない」
などという心配をする。
何とも寂しい社会に成ってしまっ
たのじゃよ。

そこで、「そのような心配は、
一切必要ありませんよ」と意思
表示をした訳なんじゃよ。
一切の見返りを求めず、無条件
の優しさをだれかに施す。
この功德を求めない行為は大きな
楽しみと成るが、功德を求めて行
う行為は不純でいやらしく、逆に
不信感を招いてしまうのじゃよ。
「情けは人の為ならず」この言
葉は人に情けをかけておけば何れ
己に帰って来ますよ、だから人には
優しくしておきなさい。と解釈さ
れてますが、何れ帰ってくるならば
と見返りを求める行為では無く、
その行為そのものを、楽しみとし
喜びと受け止める事なのじゃよ。